

菊池 勘左エ門先生の思い出

今 村 外 治

(広島市西区高須4丁目)

富山高等学校は大正13年、県立7年制高等学校として開校された。菊池先生は開設当初から、南日恒太郎初代校長の信頼を受け、尋常科(中学部)主任として高校の発展に尽瘁し続けられ、昭和18年国立3年制高校に移管のため、前年、県立魚津中学校校長に、さらに翌年、県立高岡中学校校長に転ぜられた。

私は菊池先生より2年後、富山高校に勤務、高等科で地質・鉱物、自然科学、尋常科で鉱物と地理の一部を担当、富山在勤18年間、先生には公・私共に親しくしていただいた。

先生はまことに学究的な方で、校務のかたわら、富山湾生物相の研究を、きわめて精力的に続けられ、研究面で、京都帝大黒田徳米博士とも親しくされていたようである。

大正14年富山博物学会を創設、爾来学会の代表として、その発展に努力されていた。昭和6年文部省の命を受け、米・加に出張研究を続け、翌年欧州各国を視察帰朝された。

昭和5年富山地学会が設立され、今日に及んでいるが、先生は富山在任中、しばしば、その大会や実地見学旅行にも参加された。

私は昭和18年広島文理科大学へ転出したが、先生は高岡中学・高校長を御退任、佐渡博物館長に御就任後も、九州へ御出張の折など何回か広島へお立ち寄りいただき、鈴峯女子短期大学長岸谷貞治郎博士や、私をお訪ねになり、ご近況をお話下さり、そのご活躍振りに心から敬意を表したものである。

先生にお目にかかったのは一昨年8月富山高校創立55周年記念祭の折で、富山でお元気なお姿に接した。その後、開館20周年記念号として刊行された、佐渡博物館研究報告第6集・第7集(佐渡島の地質1・2)をお送りいただいた。深く感謝するとともに、館長としてのすぐれたご識見に、ひそかに敬意を表したことである。

ご高齢とはいえ、こんなに急に昇天されるとは全く夢想もありませんでした。衷心より先生のご冥福をお祈りしたい。